

インターネットを用いた昆虫採集入門 大貝 秀雄

インターネットなど何の関係もないと思っていらっしゃる虫屋の方は多いのではなからうか。かくいう私もつい最近までその一人であった。しかしながら実は密かに会社での仕事の必要上ほんのときたまながらインターネットを利用することはあった。ただそのような場合でも他の人がブックマークに入れておいてくれた相手先の名前をクリックするだけで自動的に接続される仕掛けになっていたのでネット上を(補虫網ではない)サーフィンする必要などはなかった。また、それ以上に私にとって有益な情報など入っているはずはないという強い思いこみがあったので敢えて触れてみようとはしない日々が続いていた。

冬の近づいたある夜、待ち時間ばかりが長い仕事で遅くなる日であったが私はちょっとした遊び心からいつも使っているマッキントッシュからインターネットキットを開いてみた。まず私が勤めている会社のホームページが出る。そして Net Search と書いてある所を初めてクリックした。画面が変わりいくつかのサーチシステムから選択せよとの指示が出たので、ずっと以前に聞いた説明のうろ覚えでヤッホー(Yahoo, 英語ではヤフーと発音するらしい)という所をクリックしてみた。そうするとスポーツとか芸能とかいろんなジャンルから何かを選択しろと言ってくる。その中で虫が一番良く出そうな場所ということでとりあえずサイエンスを開き、今度は動物学というように次々に適当に選んで進んでいった訳である。次の瞬間、忽然とそれは美しい蝶の姿が原色で私の前に現れた。その他にもいろんな所を次々たたくとヘラクレスオオカブトが落ちてきたりハキリアリが襲ってきたりで大変なことになってしまった。その日、インターネットによる昆虫採集の初日であったが私は10分とかけずに思いもかけない収穫を手に入れていたのである。それは今私が一番熱中している長翅目(シリアゲムシ類)の全世界の種名リストと1800年代以降の主要文献リストで

あった。そのとき私は本当にこれはすごいことになったと気づいた訳である。例えばモルフォチョウやユカタンピワハゴロモの生態写真なら、これまでも本で見ることができたわけであるが、種名リスト、文献リストとなるとそうはいかない。昆虫のグループによっては大学の昆虫学研究室でも容易に手に入れられないものが多かったのではないだろうか。ところが、ほんの少しの英語力とインターネットに入る勇気さえあれば誰もがそれらを一瞬で入手できるようになったのだ。それは、アマチュアの昆虫愛好家が居ながらにして専門の研究者と同じレベルの知識を持つことを可能にするものだともいえるだろう。

最後にインターネットでネットインした昆虫の保存方法についても簡単に触れてみたい。文字だけの情報であればそのままプリントするのもよいけれどもマックライト・ワードなどのワープロ書類を開いてそこにコピーペーストすることをお奨めする。そうすれば、収集した情報を自分で自由に編集することが可能になる。生態写真やドローイングも同様で、私は Canvas または Adobe Photoshop のファイルにコピーしてMO(光磁気ディスク、フロッピー200枚分の記憶量)に保存することにしている。例えばこのようなファイルを After Dark といったスクリーンセーバーのフォルダーに入れておけばスライドショーとして鑑賞することもできるし、単に残しておくだけでも華麗な標本箱ができあがるに違いない。

(本稿は、パソコンで少なくともワープロ位なら何とかできるという読者を対象として書かれました。それ以上の方にはつまらない話だったでしょうし、それ以下の方にとっては意味不明の戯言と感じられたことと思います。またアプリケーションソフト類はマッキントッシュで利用できるものを中心に述べました。)

E mailaddress; hogai@po.diag.otsuka.co.jp